

【研修報告】

令和3年度「在宅医療・介護関係者」研修会を開催しました

## 『ACP ことはじめ』

令和3年6月28日(月)19時30分~21時

### 講師: 満岡 聡先生

医療法人満岡内科クリニック 院長

在宅ネット・さが 代表世話人

日本尊厳死協会学術研修担当理事・さが会長



今回は諫早市在宅ケアサークルと共催で、研修会を開催しました。かけはしいさはやとしては2度目のオンライン研修となり、約130名の方が参加してくださいました。

『ACP ことはじめ』と題し、満岡先生にACPについて、具体的な事例を交えて、大変わかりやすくお話いただきました。ACPの話をもどのように切り出したらいいいのか、タイミングがわからない、どんなことに気をつけたらいいのかなど、たくさんのヒントを得ることができたと思います。本人の希望を尊重することを前提として、ご家族や関係機関でその思いを共有し、最善の選択ができるよう支援していくことが求められていると感じました。

今回は皆さんが意見を交わす場を設けることはできませんでしたが、ACPというテーマだからこそ、皆さんのご意見を聞きたかったという声もいただいております。ACPに関する研修は、今後も企画していきますので、その際はオンラインでのグループワークにもチャレンジしていきたいなと思います。

コロナ禍において、“もしもの時”をより意識するようになりますが、難しく考えすぎず、“縁起でもない話”を、まずは身近な家族と話してみませんか。

#### 参加者の感想(一部抜粋)

- ・答えは一つではなく当事者の様々な思いを汲み取ること、タイミングに応じ度々行う事が望ましいことも理解できました。
- ・ご本人にもご家族にも「自分の人生は悪くなかった」と思っていただけのようにチームで支えていきたいと思えます。
- ・困難事例は、倫理分析のツールを使えることを学び、今後活かしてみます。
- ・次回以降はもう少し参加者間の意見が出し合える仕組みが導入されると良いと思います。

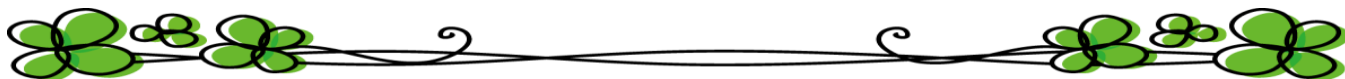
#### 『(続)佐賀県 在宅療養ガイドブック』

在宅療養の基本について、また在宅療養・看取りの事例など各専門職の立場から記載されています。ACPの現状もよくわかり、非常に学びの多い1冊でした。



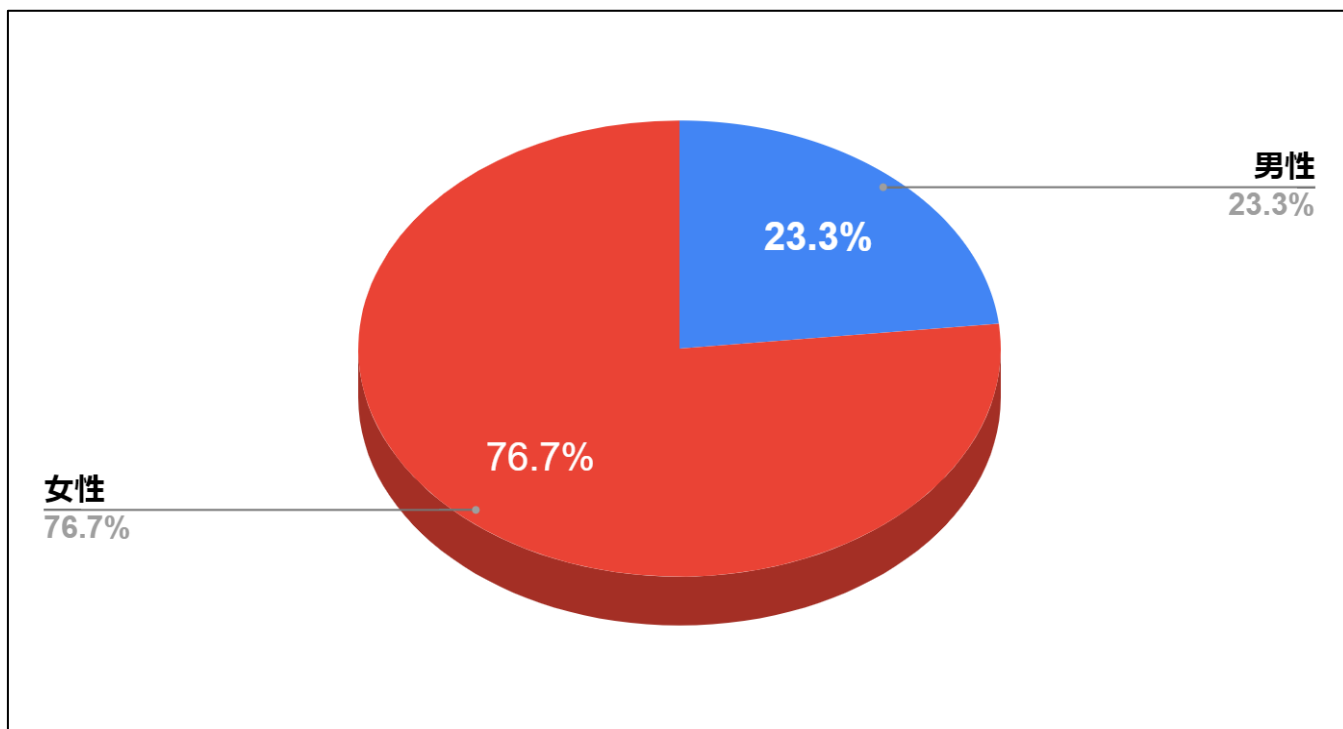
# 令和3年度在宅医療・介護関係者研修会

## 『ACP ことはじめ』アンケート結果

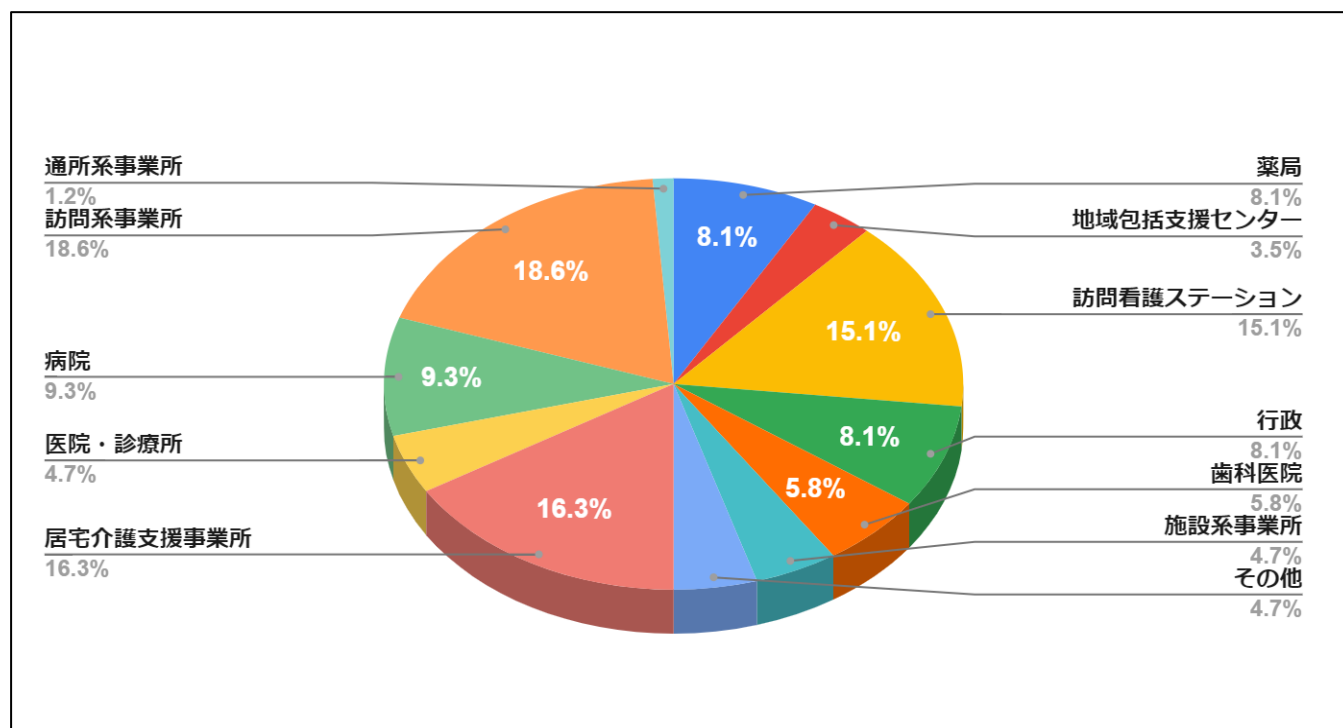


回答者数：86名

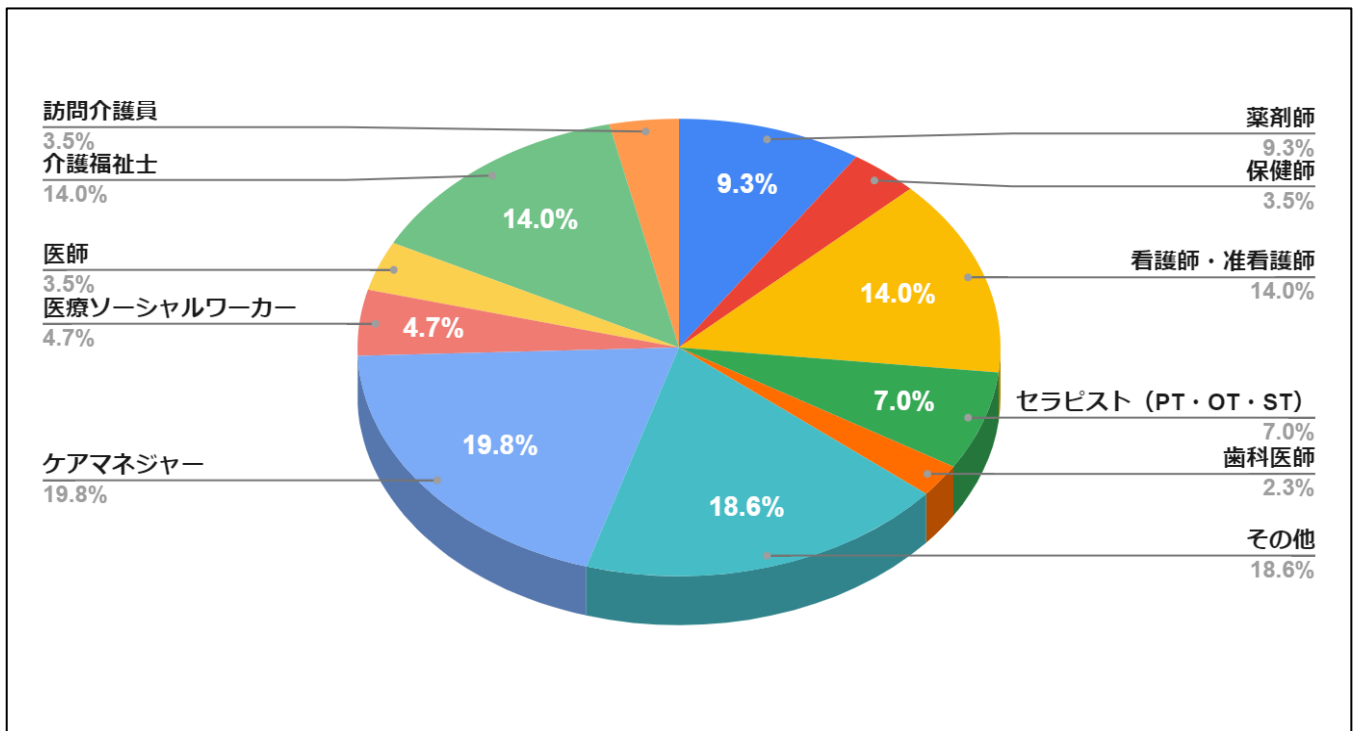
### 1. 性別(男性 20名/女性 66名)



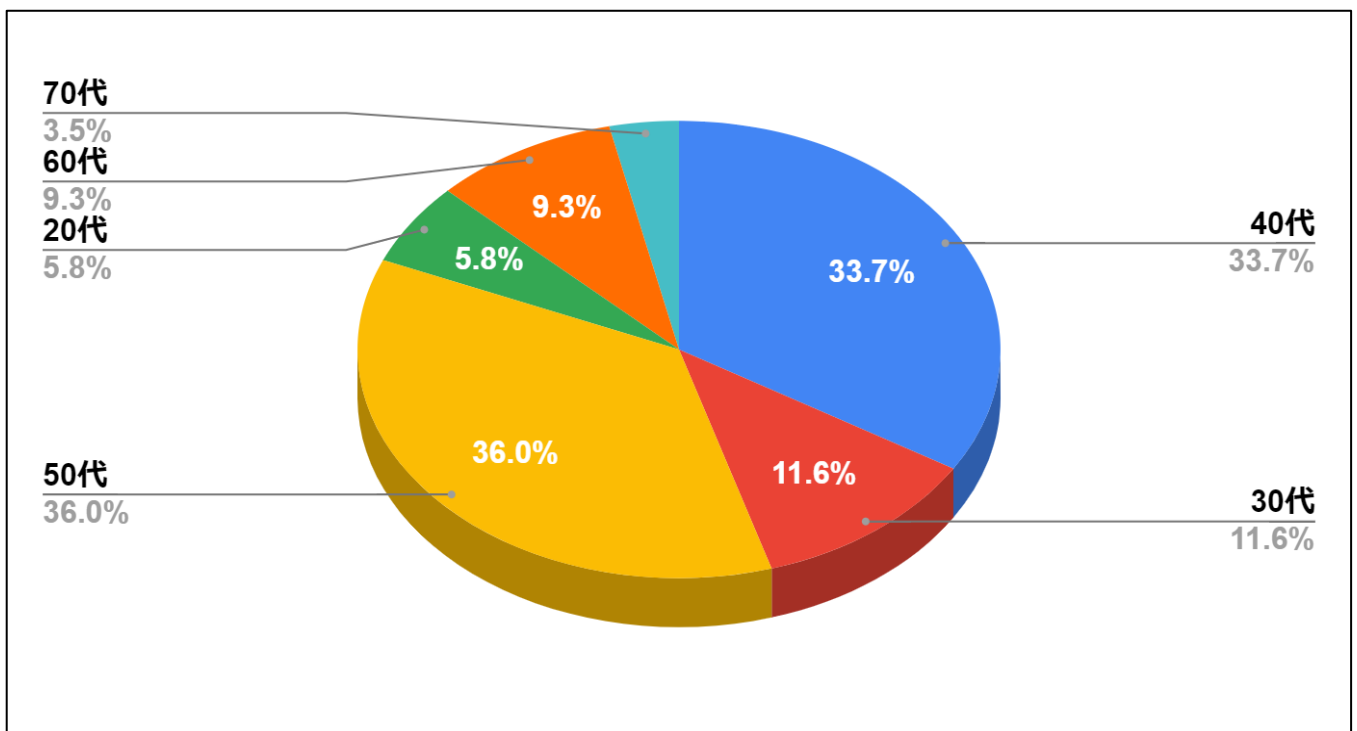
### 2. 所属



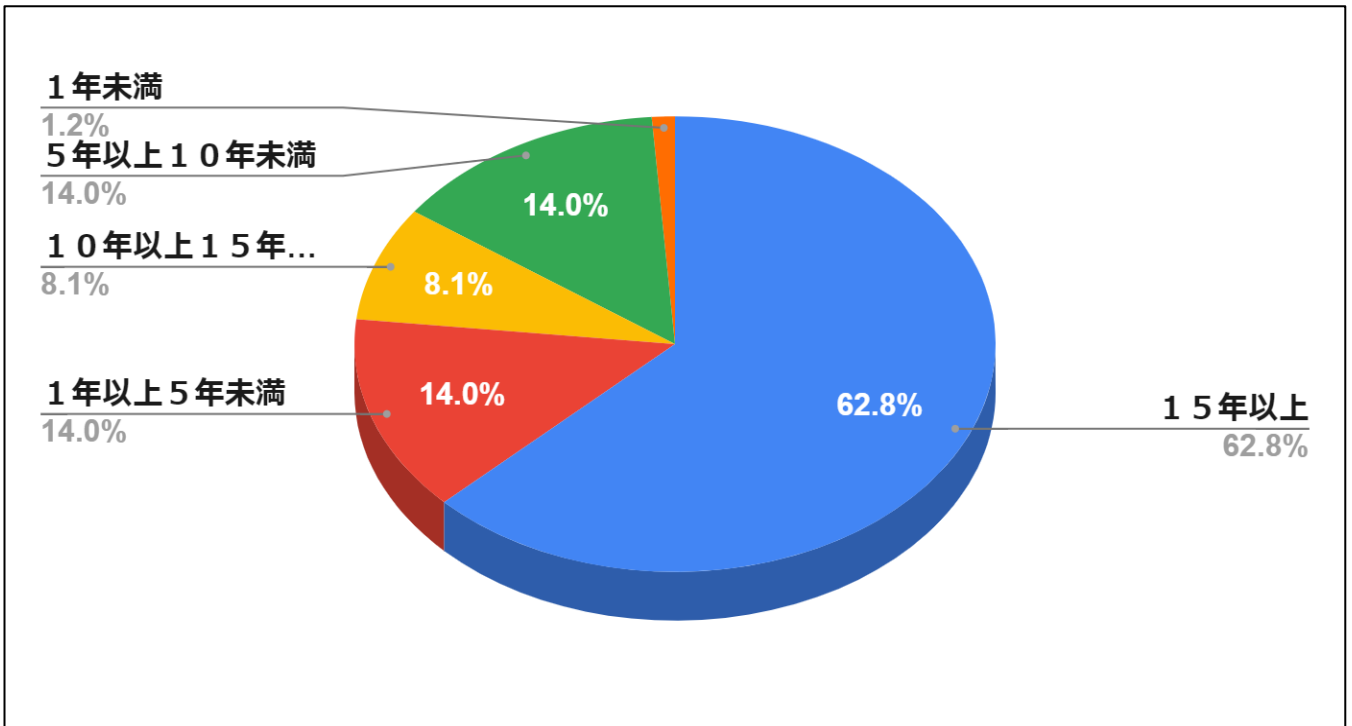
### 3. 職種



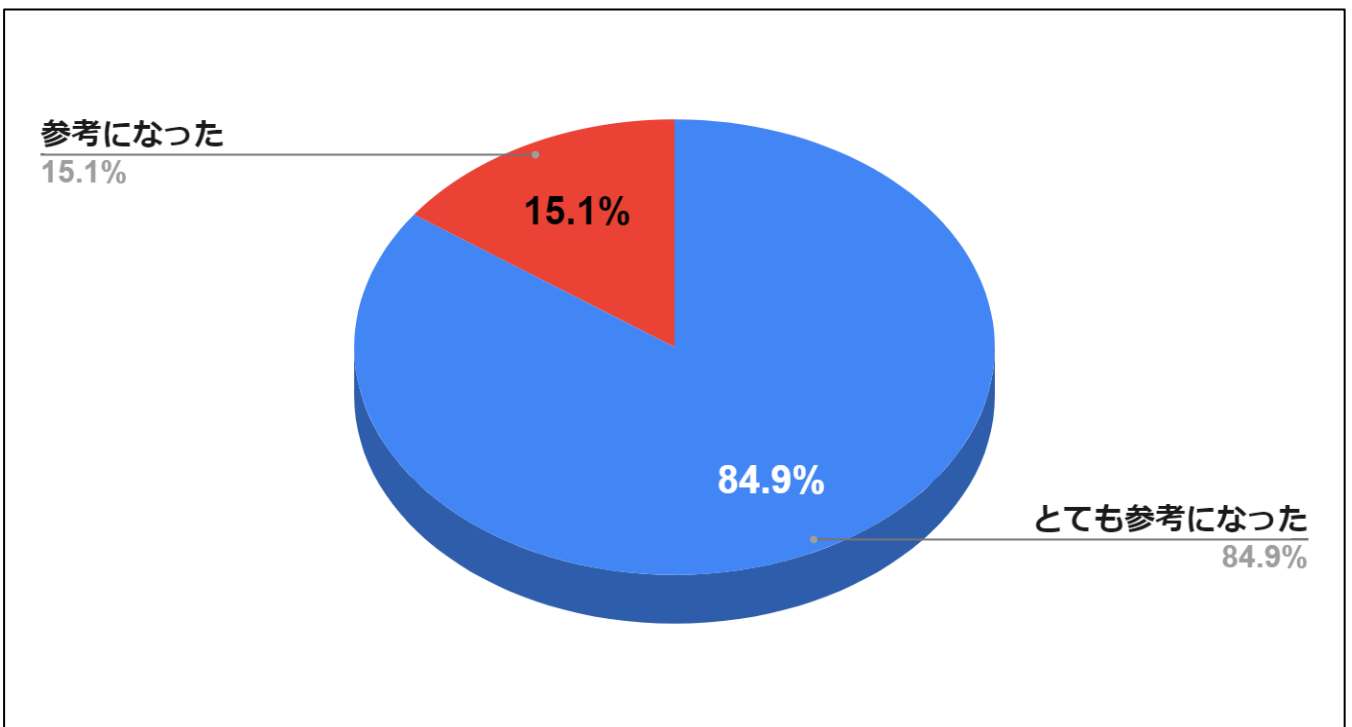
### 4. 年齢



## 5. 職場の経験年数



## 6. 本日の研修内容はいかがでしたか



## 7. 本日の研修の感想をご自由にお書きください

・ACP の研修はこれまでも受けてきましたが、方針やテクニックといった手順等がメインで、中々現場でどんな風に取り入れようかと迷うことも多かったです。ACP の本質を学ばせてもらい、日々の訪問の中で実際に行っていることをチームで共有しながら、繰り返し話し合っただけで良いとのことだったので気持ちも軽くなりました。ご本人にもご家族にも「自分の人生は悪くなかった」と思っていただけのようにチームで支えていきたいと思えます。

・看取りについて深く考えさせられる講義でした。訪問薬剤師として在宅として関わっていても状態が悪化した患者さんは皆さん入院されてしまい、その後関わる機会は今までありませんでしたが、今回の講義で学ぶことが多かったです。また機会があれば参加させていただきます。

・とても参考になりました。ありがとうございました。

・「あなたならどうしますか」で考え込みました。

・「どういった機会に家族と話し合うのか」という、ACP に触れるきっかけについて非常に参考になりました。

・今日は本当にありがとうございました。ACPというのは、とてもタイミング、そしてどこまで介入しているのか難しいと思います。今日はそのヒントになるものでした。本当にありがとうございました。今日のような、ある意味、とても難しい課題を、いろいろな立場の人を織り交ぜて、議論という意見交換できれば良いと感じました。

・貴重な実例をもとに教えて頂きありがとうございました。

・満岡先生の優しさが滲み出ていて、患者さんを大事にされているのがわかった。講義もわかりやすく聴きやすかったです。ありがとうございました！

・満岡先生ありがとうございました。今まで受けた ACP の研修で一番わかりやすく 介護の現場から自分たちの大切にすることを考えられるお話でした。

・わかりやすく、できるだけ簡易にお話しいただき分かりやすかった。

・日常の業務で忘れてはいけない患者さんの想いに気づきました。

・松尾先生の、満岡先生は ACP を意識して生きていますか。の問いが良かったです。ダラダラと生きていてはいけないと思いました。

・ACP を知るきっかけになり研修会に参加して勉強になりました。ありがとうございます。

・ACP について現場の状況を交えて教えてくださったため、とても分かりやすかったです。答えは一つではなく当事者の様々な思いを汲み取ること、タイミングに応じ度々行う事が望ましいことも理解できました。先生の執筆された本を持っています。ACP の現状を様々な担当者から記載してあるため、皆さんへ紹介してよいのではと思いました。

・ACP を病院で行う際、本人のみで行う？家族も含めて行う？

・言語聴覚士として在宅の場で携わる中で、誤嚥・窒息のリスクと食べたいという意欲・希望との狭間であったり、胃ろう等の延命治療の選択をすべきかという命の選択を迫られる場面も多く、不安や専門職としての責務を感じています。今回の研修で改めて、本人・家族を含めたチーム全体で向き合いながら、最善の選択として折り合いがつけられるような支援が必要であることを再認識いたしました。ありがとうございました。

・人生の終末期を支える仕事として、重みを感じます。丁寧に丁寧に、関わることの必要性を改めて思いました。ありがとうございました。

・他の職種の方の意見などを聞いて、視野が広がった。

・認知症で話さなくなった自分の父の最期は、以前日頃より何もしたくないと言っていたのを家族全員が聞いていたので、家族間で方針におけるトラブルはなかった。自分の家族ともしばなゲームを試してみたいと思った。自分たちもそろそろ何かしら起きてても不思議じゃない歳になってきているので。

・とてもわかりやすかったです。帰ってから、祖父母と話し合ってみようと思いました。

・ACP について、大変参考になりました。自分の事や家族の事だけでなく、関わる利用者に対して生きることの意味、価値観、本人の意思の尊重を意識していきたいと思えました。貴重な講演をありがとうございました。

・ACP を始めるタイミング、きっかけについての考えが明確になったように思います。事例を踏まえて講義をしていただき理解しやすかったです。困難事例は、倫理分析のツールを使えることを学び今後活かしていきたいです。ありがとうございました。

・面白かったです！今回は、患者様の在宅業務に関わる薬剤師として満岡先生のお話を拝聴させて頂きましたが、どんどん引き込まれて、気がつけば両親を介護する立場の自分自身に置き換えて、聞き入ってしまいました(笑) 事前の家族との意思確認の大切さに改めて気付かされました。縁起でもない話、早速頃合いをみてやってみようと思えます。また、躊躇している患者様ご家族の背中を押す役目にもなれればと考えています。先生方でも悩まれる難しいケースがあることに、逆に独りで背負わずに相談してもいいんだ!と勇気もいただきました。貴重な講演の機会を頂いたことに心から感謝いたします。

・ACP と ALP を一体的に考えた方がしっくりきます。生と死は別物のように考えがちではありますが、生きているということは死へと近づいていることで、死んだということは、生きていたということだから。当たり前のことだけど、当たり前には話としては出てこない現状。

・透析を受けられている方に対し、ACP を導入していこうとしているところです。ACP の取り組みについて、すごくわかりやすかったです。ご本人とご家族の思いを尊重して、在宅で望む生活を行い、最期を希望の場所でむかえる取り組み、サポートがすてきだなと感じました。そのように支えていくことができる環境に繋げていきたいと思えました。

・ACP の現場での取組がわかり、参考になった。本人の希望を尊重するということを基本に、みんなが同じ方向を向けるようにチームとして関わっていくことが大切だとわかった。

・今日の研修で、自分の迎える死について、もっと真剣に考えなければならないと、思いました。20代の時、臓器提供カードに提供可能で書いて持ち歩いていることを家族に伝えた時に、『そんな大変なことを一人で決めてはいけません。残された家族の気持ちも考えなさい』といつも穏やかな祖母に、ひどく怒られたことを思い出しました。自分の死は、自分だけのことではないんだと、その時が来たら、自分はどうしたいか、家族はどうしたいのか、今のうちから、少しずつ話をしていこうと思いました。ありがとうございました。

・何度聞いても考えさせられ、スタッフと家族のギャップがこれらの理解で埋まればいいなと感じました。

・まさかが起こった時延命処置を行うのか、終末期に本人が残された時間をどう過ごされたいか家族を含めてお聴きしておく事が大切だと感じております。参加させていただきありがとうございました。

・これからの、在宅の看取りに対して、大変勉強になりました。

・医療関係で働くものとして ACP の理解はしていたつもりでしたが、詳細な説明でとてもよく理解できた。私たちは、普段から意識して ACP というものについて、ご本人やご家族と関わっていますので、自分がという時には、今も家族、親族とは死に方について話をしていますが、一般の方々には、ACP についてまだまだ周知されていないと、仕事を通じて感じておりますので、私たちが普及啓発に取り組んでいかないといけないと感じました。本当にいい機会を作ってください感謝しております。

・ケアマネとして末期の方の支援を行うことで、ACP について考えさせられる場面はたくさんあります。しかし自分自身も良く理解していない点も多く、今回の研修は大変勉強になりました。

・改めて、ACP について考えることができました。貴重なお話をさせていただきありがとうございました。しかし、1 点気になることがありました。質疑の最後にありました、在宅で生活されている方に対しての資料や内容については、もう少し配慮ができなかったのかなと思いました。病院名まで出ていましたが、表記を変えることや実際に質問者へ意見を求めるなど…プライバシーにかけるものかなと感じました。

・本人様、家族の方の意向に添い、関係者チームで、方向性を確認する話し合いを、病状や介護状況、環境の変化に伴い、今まで以上にしっかり行っていきたいと思いました。私は、ぽっくり死を選びます。ある程度の年齢にて、死後の準備も整えていると仮定して。ぽっくり死は、家族の悲しみは大きいかと思えます。しかし、父を見送った経験から、病状が進行する姿を見ていくことも、家族は、本当に毎日毎日悲しくて、亡くなることに、びくびくして、恐怖を感じていました。今でもきつそうにしている顔、悲しそうな顔を思い出し、あの時こうしていたらよかったなど、何年たっても思ってしまいます。ぽっくり死の方が、楽しい思い出を思い出すことが多いのではないのでしょうか？

・貴重な講演ありがとうございます。特に長い関わりのある場合は本人の考え方を聞く機会はありません。会議の際は議題に合わせて本人の言われていたことを整理して発言し、皆さんと本人の最善を目指していきたいです。

・すごく分かり易くて勉強になりました。改めて本人の意向が一番で本人にとっての最善を目指すことが重要と再認識しました。前もって家族とどう、最後を迎えるか話をしようと思えます。ゆっくり死よりぽっくり死を希望します。

- ・ACP について知る良い研修でした。
- ・ACP に関してもっと理解し、共有したいと思います。一人一人の考え、想いは違いますが、やはり本人様の意思、家族様の意向が大切ですね。今後のケアマネジメントにも活かしていきます。
- ・ACP を理解することができ、今後 ACP を少しずつ意識しながら過ごしてみようかなあと思いました。
- ・これまでぽっくり死ぬ方がいいと思っていたが、ゆっくり死ぬ準備をして最期を迎えたいと思えた。両親の悔いなく見送りたい。
- ・具体例も挙げて頂きわかりやすく参考になりました。
- ・ACP の概要をお聞き出来て大変参考になりました。次回以降は、もう少し参加者間の意見が出しあえる仕組みが導入されると良いと思います。
- ・家族や自分自身の終末の在り方を考えるきっかけになりそうです。良いお話を、ありがとうございました。
- ・アドバンス・ケア・プランニング研修非常に勉強になりました。ありがとうございました。人生のゴールに対して、本人家族関係機関で共有する大切さを感じました。対応している利用者様の目標達成のために日常には目を向けることはありましたが、死生観について話すことは非常に難しく目を背けていたところがありました。本人家族関係機関含め意向を確認し共有していることで、その人らしい充実した人生を送るお手伝いできると思えました。意向を確認するには、日頃からの信頼関係構築が必要であるとも思いました。
- ・本人の意向を確認し、大切に関わっていきたいと思った。
- ・楽しく研修を受けることが出来てとても良かったです。スライドも対象者やそれを支えるチームの画像があったり、身近な話題での内容だったのでリアリティーがありました。
- ・とてもわかりやすく、自分事として家族で折を見て話していこうと痛感した。また質問Ⅰが心のこりではある。娘さんが具合悪くならないようにと思います。
- ・自分の考え方と違う意見(内容)が聴け、参考になった。
- ・本人の意見が尊重される時代により嬉しいです。親子の間での話し合いをきちんとしておきたいと思えました
- ・ACP は誰もが意識しておかなければならないことだと実感しました。
- ・自分自身の死と家族の死を考えました。自分は今から終活をはじめ、家族に迷惑かけないようにぽっくり死を望みたいと思えました。しかし、家族の死を考えたら、ぽっくり死は悲しいです。今後家族の死を真剣に考え、話す機会を見つけてなんとなく気持ちを聞きたいと思えました。何かあった時の延命など、本人の意志を確認したいです。仕事でもいろいろな場面に合うので、何が正解かわかりませんがいろいろ考えながら関わらせていこうと思えました。
- ・これからはどれも大切な話だと思えました。



・ACP の言葉の意味も知りませんでした。現在、実母の直面している事態で、多いに参考になりました。

・私の母は脳内出血で、救急車で運ばれ、入院4日目に亡くなりました。生前ぼっくり亡くなりたいと申していましたので、本当にその様になりました。家族は慌てる事もなく大丈夫でした。私も今からそうなった時、まわりが悲しまない様にしておこうと思います。

・調査、研究をよくして下さい、素晴らしいと思いました。

・ACP という言葉を知りませんでした。普段から自分や家族の思いをしっかりと話し合うことが大切だと思いました。

・誰にも訪れる将来の変化は、なかなか話し合う事ありませんでしたが、研修を受けて家族と話し合う良い機会となりました。そして、利用者の方々への良いケアにも繋がっていくことを願います。ありがとうございました。

・エンドオブライフケア援助者に興味があり、とても勉強になりました。

・自分の今までの支援経過を振り返り、利用者本位ではなく家族本位になっていなかったか振り返る機会ができた。利用者の意向を確認し、家族や主治医や関係者と状態や状況の変化等の際に話し合いを重ね、利用者の意向をなるべく尊重し、家族の負担軽減も念頭におき、折り合いをつけながら本人が後悔しない人生プランをなるべく支えていく必要があるということ学びました。今後の支援につなげてきたいと思います。

・看取りをさせていただく時は安心して最期を迎えて頂くように家族、職員、嘱託医と何度も話し合いを行っていますが、コロナ禍の中では面会時間や人数の制限など本人や家族の想いに添えない事があり悩みます。本日の研修を受けて今の状況の中で出来る事を出来るだけ頑張っていきます。

## 8. Zoom 研修を受けた感想やご意見などご自由にお書きください

・自宅で受けることができ、よかったです。

・これまで数回受けてきましたが、何の問題もなく受けることができ、快適です。アフターコロナの時期が来ても Zoom でも現地でも受けられるようなシステムだとありがたいですね。

・聞きやすく見やすくよかったです。

・満岡先生の熱い思いが、画面越しでも伝わりました。

・音声もクリアで、問題なく拝聴できました。

・zoom 研修は自宅でも受けやすいのでありがたいです。

・この形式が非常に助かります。

・いまは、Zoom でも積極的に連携を試みたいです。

・平日に諫早まで行くのは難しいですが、今回は zoom だったので参加出来ました。ありがとうございました。

- ・自宅に居て研修会に参加できるので良いと思います。
- ・時間帯(19時半~)なので業務に支障なく参加できます。ありがとうございます。
- ・気軽に研修を受ける機会が増えました。
- ・映像が途切れたり、音が小さかったりということは全くなく、ストレスなく受講できました。
- ・研修参加への移動時間を気にせず、間に合わない場合でも、どこでも受講出来ることが助かりました。
- ・今後も zoom での研修があると助かります。
- ・自宅では初めてのオンラインでした。参加するまでにやや時間がかかり焦りましたが無事に受講できて安心しました。21時まででしたが、自宅なので後の時間も有効に使用して個人的には良かったです。
- ・まだ不慣れで、入室に時間がかかってしまったことをお詫びします。次回からは大丈夫です!
- ・満岡先生は生の反応を求めているように思えるが、なかなか生である良さを出せていないところもあったと思われる。
- ・聞きやすく、わかりやすかったです。次は対面で満岡先生の講義を受けたいです。
- ・特に問題もなく参加できた。たくさんの方が一堂に参加できるのでいいと思う。
- ・とてもスムーズな研修でした。
- ・聴講者のマナー理解不足で演者様にご迷惑をかけないようにしたいですね、慣れるまでは難しいと思いますのでホストの調整も必要かと感じました。
- ・職場からでも自宅からでも、その日の都合に合わせて気軽に研修を受けることができるので、とても受講しやすかったです。
- ・私事ですが、声が聞き取りにくかった。
- ・参加のハードルが低くなるので、WEB がありがたいです。
- ・集中して、聞けました。家でできるのが、助かります。
- ・とても聞きやすく、良かったです。お互いの顔が見られればなおよかったです。
- ・最近ではコロナウイルスの影響で Zoom での研修が多く、ようやく Zoom にも慣れてきたかと思いますが、最後の少しの顔出しでも皆さんと共に研修ができた気がします。
- ・コロナの時期に、県外の先生の貴重なお話をきくことができ、本当に良かったです。
- ・こういうコロナ禍でも環境がととのえばできることもあると改めて感じました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・事前にスライド資料を頂いていたので、とてもわかりやすい研修でした
- ・我家のネット環境のせいですが、途中不安定になりました。

・聞き取りにくかったり、表情が見えないのが残念です。手元資料があったので、後からの見直しも出来て助かりました。

・思ったよりも、画面が見やすく、話が聞き取りやすかったです。会場には 40名ほどいましたが、130名の参加があったと聞き、大人数が参加し知識向上ができるし、感染予防になるので zoom 研修は今の時世に適していると感じました。

・今回、時間の都合で私の事業所では私だけしか受講出来ず、良い内容だったので他の職員にも受講させたいのですが、再放送は出来るのでしょうか？

・カメラを閉じての研修がとてもよく、また、終わった後にカメラ ON にして拍手が更によかった。

・ギャラリーの人の声が入ったのはもったいなかった。

・会場まで行く時間がはぶけるので助かる

・Zoomは最近広く使用されて来ているので慣れてきつつあります。わかりやすかったです。

・会場までの移動がないのは良い点ですが、会場からの質疑応答が自由にできればと思いました。資料も見やすく分かりやすかったです。

・大変良かったです。

・多数の会場の人が、同時に講習を受けることができ、密を避けるためには理想だなと思いました。満岡先生、松尾先生 好感がもてました。

・コロナ禍で密にならず良かった。

・声も良く聞こえ、集中して受けることができました。

・コロナ禍の中、研修を受けられた事を感謝します。

## 9. 今後「在宅医療・介護関係者」研修会ではどのようなテーマ(内容)を希望されますか

・支える家族が精神疾患の利用者さんが増えています。皆さんがどのようなことに困難を感じ、どのような対応をされているのか等情報共有が出来たらと思います。介護、行政の分野から情報を得られたらありがたいです。

・もしバナゲームをやりたいです。

・介護と医療の連携のあり方について

・またACPを聞きたいです

・「ケアマネジャーの役割、どこまでできるのか?」「終末期鎮静について」

・お互いを知る研修会はいかかですか？

・在宅輸液の状況、褥瘡の治療経過、癌疼痛コントロールにおける医療用麻薬の使用状況等 専門職の方にお話しいただきたいです。

- ・ACP について、他の職種の関わり方を知りたいです。
- ・終末期看取りにおける薬剤師の役割（…はあるのだろうか…）
- ・入院後に家族との面会を断たれることによる患者の精神的ダメージと、入院患者と家族の先進的  
面会の形を考える。
- ・もしバナゲームを使った研修
- ・在宅、施設での看取りについて
- ・感染症、透析、認知症
- ・処遇困難な認知症患者への対応と考え方
- ・ACP 意思決定支援時の具体的援助について
- ・病院から在宅への連携。病院の看護師が、在宅のサービスについて知らなすぎて、話しにならない  
病院がある。退院時の衛生材料や家族指導など。
- ・他法と介護保険、双方の混在したケースの支援について（生活保護、障害、成年後見など）
- ・ターミナル期の支援の在り方、医療との連携等
- ・在宅医の講習
- ・認知症の方とのかかわり方
- ・互いに連携を取る方法。一つの 職域では問題になっているが、それがなかなか共有できていない。  
ケアマネも無関心な事がある。こんな時にどのようにして共有するか？
- ・在宅生活の限界はどこまでなのか？
- ・在宅介護に関わる者として、介護サービスを繋ぐ役目を担っていますが、経済困難な方の選択肢が  
少ないので、生活保護以外の資源について知りたいです。
- ・薬剤師や歯科などについて学びたい。
- ・ACP の実践編等はいかがでしょうか？。今回の内容は良かったと思うのですが、実践している例は  
まだまだ少なく、課題も多いのではないかと思います…。
- ・災害時について
- ・高齢者の尊厳について。治療や介護が必要な状況でも本人が希望しない場合、どこまでその意向  
を尊重するのか、どのように関係者で整理したらよいか。（ゴミ屋敷、緊急性はないが、治療や介護  
を受けないので、いつ自宅で亡くなってもおかしくない生活を送っている方など）
- ・安心して老後生活するための資金面やなるべく認知症にならない食生活や暮らし方等興味があり  
ます
- ・ターミナルの方への声かけ、対応など、ご本人に寄り添って訪問して参りたいと思っておりますが、教え  
て戴きたいと思ます
- ・看取り、ターミナルケア、家族の精神的ケアについての立場別の指針、視点
- ・認知症ケアについて
- ・ストレスケアについて、ストレスのメカニズムとその予防法について